

八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)及び(仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)へ寄せられたご意見と市の考え方

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
1	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	2頁	2計画の位置づけについて 国の考え方が本計画のベースとなると考えるが、記載の環境基本法、地球温暖化対策の推進に関する法律、循環型社会形成推進基本法、生物多様性基本法、気候変動適応法、第五次環境基本計画について資料編等に要点、考え方等を入れると国の考え方と本市の考え方とマッチングでき全体像が理解し易いとする。	ご意見のとおり各種法律や計画を資料編で紹介することは理解の一助となると思われませんが、紙面に限りがあることから割愛させていただきました。	—
2	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	4頁	図産業大分類就業人口比について 第1次産業として農業に従事している世帯等もあり、その比率が2~3%であっても記載して頂きたい、その理由は、次頁に農業出荷高の記載されており、千葉県は地産地消の考え方がキーワードになっていると考える。 第2次及び第3次に分類できない産業を一律に分類不能にするのではなく、内閣府や経済産業省の考え方として、第4次産業、第5次産業の定義もあり、第4次及び第5次産業に従事している比率にした方が現実的にリンクすると考える。	ご意見を受けて第1次産業の比率及び分類不能の比率の数値を追加いたしました。また、出典データの記載が漏れていた為追加いたしました。 分類不能の産業につきましては、出典元のデータにおいても「分類不能の産業」となっていることから、そのままとしております。	有
3	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	19頁	1. 第2章 3八千代市の環境の現況と課題 (4)自然環境に関する現状と課題 【第2次環境保全計画における環境指標の目標達成状況】について 谷津・里山保全箇所数について基準値の2009年度について0となっているのはなぜか。当時すでに八千代自然と環境を考える会や八千代オikos、街づくりの会など数団体が保品伊勢谷津、花輪川流域、米本城跡地などで保全活動を始めており、環境保全課を通じて後援をいただいたり、市の行事にも協力もしてきた。本来、第2次環境保全計画策定時に意見を出すべきだったが、このままで市の担当者が変わっていくにつれ、昔から保全活動の蓄積をされてきた団体には地域ならではの保全活動のノウハウが在り、このまま忘れ去られていくのは残念。何らかの補充、訂正をして欲しい。	この指標で指している谷津・里山保全箇所数とは主に里山楽校の卒業生が活動している場所を数えたものとなっております。2009年度時点ではまだ里山楽校は開催されていなかったことから0となっております。里山団体のみならず、市内で活動されている環境団体とは引き続き連携しながら計画を推進して参りたいと考えます。	—
4	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	31頁	第4章 基本方針1 (1) 主要課題 気候危機に立ち向かうことに明確に言及し、市民や事業者と共に地球温暖化対策に積極的に取り組むことを記載すべきである。市民、事業者そして産業部門において脱炭素社会の実現のために、日常の活動に必要な「エネルギー」について省エネルギー対策の重要性と、再生可能エネルギーへの転換が不可欠であることを明確にし、中長期的な都市計画や産業政策を含めた脱炭素型のまちづくりの計画を策定し、着実に進める必要がある。	主要課題において、気候危機に言及している他、ゼロカーボンシティ宣言をしたこと、省エネルギー対策が不可欠であること、再エネ導入拡大についてふれております。ご意見の趣旨を踏まえ本計画を進めて参りたいと考えます。	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
5	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	31頁	第4章 基本方針1 (1) 目的 目標には、ゼロカーボンシティ宣言の主旨を取り入れ、2050年までに温室効果ガス実質排出ゼロを目指す持続可能な脱炭素型社会を実現することを明確に記載すべきである(「目指す」では目標にはならない)。	貴重なご意見として参考とさせていただきます。	—
6	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	32頁	第4章 基本方針1 基本施策1-1脱炭素型まちづくりの推進 脱炭素型まちづくりの基本的方向性が、あいまいになっているため、具体的な施策と結びついた明確な方向性を示す必要がある。まず、地球温暖化防止対策の総合的推進では、「区域施策編」に基づく取組みにおいて、どの施策を重点的に進めるかを明記すべきである。国や県の啓発キャンペーンに協力するだけでなく、必要な施策については積極的に参加して共同で事業を行い、他の自治体とも協働して必要な要望を行い、予算を獲得すべきである。もちろん一事業者としての市は、公共施設の運営・更新などにおいて脱炭素化に向けて率先して取り組む必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
7	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	32頁	第4章 基本方針1 基本施策1-1脱炭素型まちづくりの推進 都市マスタープランにもとづく土地利用や交通計画については、脱炭素化の視点で適切に見直していく必要がある。公共交通の利便性を大幅に向上し、安心して健康に「徒歩」で暮らせるまちづくりを行い、再生可能エネルギーと電気自動車の普及により交通部門の二酸化炭素排出量をゼロにすることを目指すための計画を策定する必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
8	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	32～33頁	第4章 基本方針1 基本施策1-1脱炭素型まちづくりの推進 脱炭素型の建築物の普及促進については、既存の建築物の省エネルギー化を進めるために、高断熱化と設備のエネルギー効率化を促進するための診断を進めると共に、必要な経済的な支援制度を進める。公共設備については、防災機能も高めつつ数値目標を定めて省エネルギー化と再生可能エネルギーの導入を率先して進める。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
9	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	33頁	第4章 基本方針1 基本施策1-1脱炭素型まちづくりの推進 「環境指標」については、市域の温室効果ガス排出量だけではなく、家庭、業務、産業の各部門について定める。一人当たりや事業所の排出量については見える化をして、常に具体的な取組みにつながるようにする必要がある。	ご指摘の通り第4章には部門別の削減目標が出ておりませんが、第7章地球温暖化対策実行計画の中で部門別の目標を記載しております。	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
10	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	33頁	計画改定版では省エネ施策として「ZEBやZEHの普及拡大を進める」とあるが、これらの取組みに対する具体的な目標値の設定がない。千葉県では2030年に「新築着工件数のZEB化、ZEH化割合100%」とかなり意欲的な目標としている。本市でも「省エネ施策」に対する目標設定をするべき。見直し願う。	新築へのZEB化、ZEH化への働きかけは温室効果ガス排出量の大幅削減を実現するために必要な省エネ施策であると認識しております。 具体的な目標設定につきましては、事業者との連携も必要であると考えており、今後、手法等も含め調査研究してまいりたいと考えております。	—
11	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	34頁	第4章 基本方針1 基本施策1-2再生可能エネルギー等の導入推進 環境指標 「区域の再生可能エネルギーの導入容量」の2030年度の目標値が初めて55.2MWと定められことは意義があるが、その導入目標値は不十分ある。世界全体では、2023年12月にドバイで開催されたCOP28において、2030年までに再エネの発電設備容量を現状の3倍にすることが合意された。八千代市においても、現状の30MWの3倍である90MWの導入量を少なくとも目標とすべきである。	区域の再生可能エネルギーの導入容量の目標値は国の目標値を参考に定めております。本目標の達成以上の成果を出せるように努めて参りたいと考えます。	—
12	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	34頁	第4章 基本方針1 基本施策1-2再生可能エネルギー等の導入推進 環境指標 産業部門、家庭部門、業務部門、それぞれの部門での太陽光発電の導入目標を定め、特に産業部門については、省エネと共に再生可能エネルギー(太陽光など)の導入目標を大幅に高く定める必要がある。自治体(八千代市)と共に、企業自らの導入目標を示すと共に、調達する電気については再生可能エネルギー100%の達成時期を各企業が明確にすることが求められる。	貴重なご意見として参考とさせていただきます。	—
13	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	34頁	第4章 基本方針1 基本施策1-2再生可能エネルギー等の導入推進 「環境指標」としては、温暖化対策における二酸化炭素排出量の削減と連動した数値目標を、部門ごとに設定すべきである。発電電力量ではなく、電力の需要量に対する割合を目標とし、再生可能エネルギー熱や燃料についても、目標値を定めるべきである。さらに、太陽光発電や太陽熱、バイオマスについての導入目標(設備容量など)を定めることが必要である。	貴重なご意見として参考とさせていただきます。	—
14	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	33~34頁	第4章 基本方針1 基本施策1-2再生可能エネルギー等の導入推進 基本的な方向性として、八千代市内で可能な太陽光発電、太陽熱利用およびバイオマス利用を推進すると共に、市民や事業者が購入や調達するエネルギー(電気、ガス、燃料)について地域のエネルギー事業者(地域新電力、ガス会社など)と協働して再生可能エネルギーの割合を高める施策が必要である。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
15	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	33~34頁	第4章 基本方針1 基本施策1-2再生可能エネルギー等の導入推進 太陽光発電については、具体的に、住宅用や事業所の屋根に関する調査・診断を行い、市民や事業者と協働して明確なロードマップを定めて、導入を推進する必要がある。あわせて太陽熱や地中熱などの再生可能エネルギー熱利用についてもロードマップを定め、ガス会社や住宅関連事業者と協働して導入を促進する必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
16	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	33~34頁	第4章 基本方針1 基本施策1-2再生可能エネルギー等の導入推進 再生可能エネルギーや未利用エネルギーを有効に利用するためのエネルギーのインフラとしてデジタル技術も取り入れた自立分散型のエネルギーシステムの整備を、モデル的に公共施設を中心に進め、さらに住宅や事業所、産業部門で利用可能にする必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
17	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	33~34頁	最大限の再生可能エネルギーの導入が必要。「再生可能エネルギー等の利用推進」として「公共施設への再エネ導入」や「再エネ由来電力の調達」、「PPAやソーラーシェアリング、RE100等の情報提供・相談対応」などいくつかの具体的な施策が追加されたが、その目標設定が不十分。約2倍増の設定も、再エネ比率では3%→6%という非常に低い設定になっている。見直し案の再生可能エネルギーの導入目標で「本市の温室効果ガス40%削減」は達成できるのか。少なくとも40%削減が達成可能な再エネ導入目標とするべきではないか。千葉県では14.4%→27%という設定。本市の太陽光の再エネポテンシャルでも「917GWh」と今の目標設定の16倍以上のポテンシャルがある。国の比率で設定するのではなく、本市で実現すべき再生可能エネルギーの導入目標に見直して頂きたい。	今後の検討課題とさせていただきます。	—
18	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	34頁	第4章 基本方針1 基本施策1-2再生可能エネルギー等の導入推進 地域のバイオマスについては、廃棄物などの資源循環として再生可能エネルギーとして積極的に活用すべきである。特に一般廃棄物処理施設においては、発電と共に熱利用も積極的に進め、未利用エネルギーとしての排熱を面的に利用するインフラを整備していく必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
19	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	34頁	第4章 基本方針1 基本施策1-2再生可能エネルギー等の導入推進 水素エネルギーについては、2050年に向けた脱炭素化において将来的に必要となる可能性はあるが、まずはヒートポンプや電気自動車などの電化によるエネルギー効率化を優先すべきである。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
20	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	35頁	基本施策1-3市民・事業者の地球温暖化対策・省エネルギー活動の促進脱炭素型社会の実現に向けて市民や事業者と協働で施策を進めることが重要である。単なる情報提供ではなく、市民や事業者との協議会や共同プロジェクトを立ち上げ、具体的な施策の進め方やプロジェクトの実施について協議をし、地域での人材の育成やノウハウの蓄積を図る必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
21	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	35頁	基本施策1-3市民・事業者の地球温暖化対策・省エネルギー活動の促進排出の半分以上を占める産業部門の脱炭素化の取組みについては、企業の積極的な取り組みが進む施策が必要である。必要な協議を行い、企業のCO2排出量の開示を求め、企業が主体となった協議会において、具体的な目標やロードマップを策定して、企業ごとに計画を策定して必要な設備の更新などに取り組む必要がある。そのための計画書制度や支援制度を県や国とも連携して進める。特にゼロカーボンシティ宣言をした県や周辺自治体とは強力な連携が必要である。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
22	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	36頁	基本施策1-3市民・事業者の地球温暖化対策・省エネルギー活動の促進「環境指標」としては、具体的な目標や計画を定めた事業所や企業の数と共に、それらの事業所のCO2排出量の総量の割合などを指標とすべきである。また、さらに有効な取り組みを行っている市民団体、事業所やプロジェクトを登録してネットワーク化し、優良事例としてカウントしたり、CO2排出削減量や再生可能エネルギー導入量、投資金額などで指標化する。	貴重なご意見として参考とさせていただきます。	—
23	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	36頁	運輸部門における取組の一つとして「次世代自動車の普及促進、公用車への率先導入」が追加されたが、導入割合の具体的な目標値が設定されていない。千葉県では「2030年までに公用車を全て電動車とする」「地域の電動車保有台数を100万台とする」とされた。本市でも「公用車の電動化100%」や「市域での電動車保有台数」等の目標設定すべき。見直しを願う。	公用車の電動化につきましては、本年度、公用車に1台電気自動車を導入したほか、2030までに目指す方向を事務事業編に位置付ける予定です。また、市民向けには、電気自動車及びプラグインハイブリッド自動車の購入費用の一部を助成しております。今後も、市民向けの補助制度を継続できるよう、また、公用車の電動化への切り替えについて、庁内での促進が図られるよう関係課と協議し、取り組んでまいりたいと考えております	—
24	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	36頁	住宅用省エネルギー設備等導入に対する補助金交付件数だが、このペースでは全然目標分だけ家庭に普及しない。この数をこなしても微々たるもの。見通しがあまいと思う。太陽光やエコハウスを主に普及という割にはかなり弱めな補助金交付件数かと思った。最低でもこの50倍~100倍は必要だと思う。本気で太陽光やエコハウスに絞って増やすというのならだが。	引き続き住宅用省エネルギー設備等導入に対する補助金交付は行ってまいります。その他の施策の推進も合わせて目標達成に努めて参りたいと考えます。	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
25	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	46頁	環境指標の表に記載されている「公害苦情件数」の現在値の109件を種類別等に分類すると内容等が理解できて良いと考える。又、苦情件数として解決済みの比率も入れると良いと考える。	公害苦情の種類につきましては、16頁に内容別の件数を記載しておりますのでそちらでご確認いただけます。解決済み件数につきましては、解決済みの定義を定めることが難しいことから、把握しておりません。	—
26	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	50	2. 第4章4-1谷津・里山等の保全・環境指標 19頁【第2次環境保全計画における環境指標の目標達成状況】において環境指標 環境保全林の面積が大幅に減少しているにも関わらず、2019年度が空白で現状維持にOKが出ているのはなぜか。50頁の環境指標「環境保全林面積」の2022年度の現況値は1.8haとなっており、減少傾向が著しいのは明らかではないか。環境保全林については大幅な見なおしを行い、市街化調整区域の多くの荒廃林の復活などに役立てることができないか。調整区域に整備された林ができることは市街地の住民にとっても癒しの場の創出など大きなメリットがある。環境保全林制度についてこの機会に大幅な見なおしを行って欲しい。	現在環境保全林については、新規の指定を行っておらず、解除希望があった際に解除している状況にあることから、現状を維持することを目標としております。ご指摘の件に関しましては貴重なご意見として参考とさせていただきます。	—
27	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	53	基本施策4-4 自然とふれあう機会の創出 自然と触れ合う機会の創出の指標としてホテルの里活用回数が掲げられているが、ホテルの里に限定せず、民間の団体による自然とのふれあい機会の創出についても後援その他の支援を行うことができる。環境目標としても後援回数や参加者の人数などを付け加えてはどうか	自然と触れ合う機会以外の環境学習も含んでおりますが、基本施策5-1環境教育・環境学習等の推進で環境学習講座等開催数を指標として設けており、引き続き自然とふれあう機会の創出に努めて参りたいと思います。	—
28	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	59頁	再生可能エネルギー等の普及のための活動を行う市民団体、事業者を支援します。とあるが、オフグリッド活動もその中にいれてみては。オフグリッドは電線網をつかわないエネルギーの自給を目指す活動である。50W太陽光パネル、蓄電池、インバーターなど小さい範囲での組み立てセットが世の中にはある。小さな範囲でも自分で再生可能エネルギーをつくり、スマホ充電などができたら、身近に再生可能エネルギーを感じると思う。つくる喜びを知り、どんどん増やしていけば家中の照明や弱電の部類はまかなえる。自分で作り、自分で使う。この理屈と喜びをもっと多くの人が知れば将来一戸建てを建てる時に太陽光導入、蓄電池導入などにつながると思う。自分で作り使うというサイクルが大きくなっただけの話なので。 ドイツでは住宅の屋根の太陽光発電の電気は基本蓄電して自宅で使うとなっているそうで、その分電力網に流れない分だけ電力網の混乱はなくなる。 余った分だけ売電をするのが基本とすればいいのではと思う。	オフグリッドの有用性について認識はしておりますが、貴重なご意見として参考とさせていただきます。	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
29	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	59頁	<p>第5章 ゼロカーボンシティ推進プロジェクト</p> <p>脱炭素型社会の実現のため、具体的な事業を家庭、事業所、産業部門それぞれにより明確に策定する必要がある。</p> <p>(1) 脱炭素型まちづくりのマスタープラン策定事業：市民や事業者による提案型</p> <p>(2) 住宅用のゼロエネルギーハウス(ZEH)化事業：断熱などの省エネルギーと再生可能エネルギー導入と購入の推進、ゼロ円ソーラー、リースやPPA事業など</p> <p>(3) 事業所のゼロエネルギー建築化事業：省エネルギーと太陽光・太陽熱などの再生可能エネルギー導入、オンサイト・オフサイトPPA、再生可能エネルギー調達の推進など</p> <p>(4) 産業部門の脱炭素化：中長期的な脱炭素化計画の策定支援、工業団地の面的な脱炭素化計画策定、官民共同の省エネルギー・再生可能エネルギー導入促進事業、助成制度と民間投資による事業スキームなど</p> <p>(5) 脱炭素化社会実現のための地域エネルギー事業：地域協働発電所と防災拠点づくり、地域新電力事業(地域の再生可能エネルギーの調達から販売まで)</p> <p>(6) 地域のバイオマス資源循環事業：一般廃棄物の資源循環(資源リサイクル、エネルギーの面的利用など)、プラスチック削減(バイオマス利用)、森林・里山保全との連携(吸収源)、木材利用(建築物の木造化など、木材利用や森林保全の広域連携)、</p> <p>(7) 交通部門の脱炭素化事業：公共交通機関の整備とゼロエミッション化、徒歩・自転車の利便性向上・見える化、バイオ燃料活用、電気自動車の普及と充電インフラ整備、カーシェアリング(電気自動車)事業など</p>	<p>ご提案いただいた事業の一部につきましては基本方針の方に盛り込んでおります。第5章の施策の策定方法につきましては貴重なご意見として参考とさせていただきます。</p>	—
30	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	69頁	<p>八千代市と全国におけるエネルギー～を全国ベースとして比較(低いか高いか平均並みか)した内容も入れると本市の状況がつかめて良いと考える。</p>	<p>「八千代市と全国におけるエネルギー起源温室効果ガス排出量の部門別排出量」のグラフにおいて全国と本市の比較ができるようになっており、本市の状況をつかむ一助となっているものと考えます。</p>	—
31	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	80頁	<p>八千代市の年平均気温の5年間移動平均として隣の佐倉市と比較した結果として八千代市が佐倉市よりも約0.3度高いと推定しますがその理由等も解析をして頂けると更に良いと考える。</p>	<p>本市内には気象庁の公式観測所が無いため、市が観測したデータを用いており、参考として気象庁の公式観測所である佐倉観測所のデータを記載しております。このように別機関による観測データであることから比較対象とするには適さないと考えます。</p>	—
32	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	91頁	<p>記載されている加盟している会議、協議会について加盟している市町村数が記載有りとしが混在しており、統一する意味を含めて市町村数も記載をして頂きたい。</p>	<p>市町村数を明らかにする記載がなかったのは4)印旛沼流域水循環健全化会議だけだったことから同会議の構成の記述を修正いたしました。</p>	有

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
33	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	—	<p>本市はエコアクション21認証登録を2009年から12年間行い、環境マネジメントシステムを全職員が運用した。これは自治体では数少ない誇れる実績である。このことが触れられていないのは残念。もっとアピールし、市民をリードして頂きたい。</p> <p>(本市では、市民・事業者・市が協力して環境に配慮したまちづくりを行っていくため、平成12年3月に環境保全計画を策定した。更に次のステップの率先行動計画(温暖化対策)を平成13年4月に策定した。その延長線上でエコアクション21の認証を取得した。)</p>	<p>本市は、環境への取組を自主的に行うため、取組を継続的に改善する手法として、環境省が策定した環境マネジメントシステムであるエコアクション21を採用し、平成21年3月に認証登録されました。以後、毎年度、継続的に審査を受け、各所属において環境保全への意識を高めながら、独自の取組を行って参りました。開始から12年が経過した時点でエコアクション21の導入目標である「環境意識の自覚と実践の確保」は一定程度達成できたことから、令和2年度までで同取組は終了し、現在は独自の環境経営システムを用いて取り組みを継続しております。以上の様な状況を踏まえ、現計画ではエコアクション21には触れておりませんが、今後も同事業の実績を活かしながら、引き続き環境への取組を継続して参りたいと考えております。</p>	—
34	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	—	<p>ゼロカーボンシティ宣言を受けて、気候危機に立ち向かうための地球温暖化対策の対象が市域全域に広がり、2050年カーボンニュートラルに向けた明確な目標を定めると共に、脱炭素型社会の実現に向けて全ての主体が取り組むことが明記されていることは大きな意義がある。さらに、この計画が具体的な施策として着実に実行され、市民や事業者の積極的な取り組みにつながり、その効果が市民や事業者にとって実感できる仕組みが必要である。</p>	<p>貴重なご意見として参考とさせていただきます。</p>	—
35	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	—	<p>この改訂版では、2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度40%削減へと目標を引き上げ、更なる高みを目指すとしているが、日本全体の46%削減よりも低い目標は自治体の地球温暖化対策としてまったく不十分である。特に産業部門の削減率が19%に抑えられており、排出量の全体の半分程度を占めて大きい産業部門の削減率を40%以上に高める必要がある。特に大規模な事業者は業界ごとの国の削減目標への対応を進めると共に、カーボンニュートラルに向けた取組が進められており、それらの企業と連携をすると共に、中小企業への排出削減の支援策を千葉県などとも共同して進める必要がある。</p>	<p>今回の見直しにおいて、2030年度における市域からの温室効果ガスの排出削減目標を、2013年度比22%削減から40%削減し更なる高みを目指す引き上げました。ご指摘のとおり部門別の削減目標で産業部門の目標値が19%と他部門と比較して比較的低めとなっておりますが、上記目標から派生し、産業部門の削減につきましても更なる高みを目指したいと考えます。</p>	—
36	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	—	<p>家庭部門および業務部門については、70%を超える高い削減率が求められるが、この削減率の実現に向けた追加対策を着実に実施する必要がある。「市民や事業者・行政などによる脱炭素に向けた行動変容の促進」とあるが、再生可能エネルギー導入の促進区域の策定、再エネ・省エネの補助制度などの支援策(国や県とも連携)の強化、再エネ・省エネ設備導入の説明義務や導入義務などの規制の強化、事業者と連携した公共施設や住宅・建築物への太陽光発電の導入促進などを、新たな体制で、官民共同の事業として推し進める必要がある。</p>	<p>計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。</p>	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
37	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	—	再生可能エネルギーによるCO2削減効果が、非常に少ないが各部門での再生可能エネルギーの導入施策を明確にし、各部門での再生可能エネルギー導入の効果を明確にした上で、より高い再生可能エネルギー導入の目標を積み上げるべきである。	区域の再生可能エネルギーの導入容量の目標値につきましては、基本施策1-2再生可能エネルギー等の導入推進において環境指標に記載しております。ご指摘の部門別の目標の積み上げではありませんが、こちらの導入目標の達成に努めて参りたいと考えます。	—
38	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)	—	徹底した省エネ施策と最大限の再生可能エネルギーの導入 八千代市が2030年まであと7年でこの目標でも達成するというのは並大抵のことではない。この削減目標達成に向けて、本気で地球温暖化対策を推進するなら計画には「徹底した省エネ施策と、最大限の再生可能エネルギーの導入」が何より必要である。その点から本改訂版は施策も指標も不十分である。ゼロカーボンシティ宣言をしながら、上辺だけやったふりをする「グリーンウォッシュ」とならないように今後の取組みの検討をお願いしたい。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
39	(仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	1頁	1. ロードマップの概要 1.1ロードマップの目的と位置づけ 図には国の指針・法律・条例等が記載されていないが、本内容は八千代市独自で作成をし内容なのか。国や県等の内容をベースにして作成をしたのならばその旨も記載をして欲しい。	本ロードマップは国や県の目標なども考慮し作成しております。図では見やすさを考慮し市の計画を取り上げて作成しております。	—
40	(仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	1頁	1.1. ロードマップの目的と位置づけ 図の中で、八千代市地域脱炭素ロードマップから3つの項目を通じて、ゼロカーボンシティの実現を目指すとしているが、「市民・事業者の行動変容」ではなく、「行政・市民・事業者が連携した社会システムの変革」が必要である。「省エネルギーの推進・再生可能エネルギーの導入」によりゼロカーボンシティの実現を目指すには、これらのレベルを相当高める必要があり、「ネット・ゼロ・エネルギー化および再生可能エネルギー100%」を実行する必要がある。そして「革新的技術の早期実装」を期待するのではなく、未来の地域ビジョンを明確に掲げて既存技術の早期普及を強力に進める必要がある。	こちらにつきましては、ご指摘内容を参考にするとともに、後述の内容との整合を踏まえ、見直しを行いました。	有
41	(仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	2頁	1.3 脱炭素目標のについて 長期目標として「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロの実現」と記載されているが、この西暦は八千代市が独自に決めた目標なのか。それとも国や県の指針で決めましたのか。分かり易く記載をして欲しい。	長期目標として「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロの実現」と記載されているが、この西暦は八千代市が独自に決めた目標なのか。それとも国や県の指針で決めましたのか。分かり易く記載をして欲しい。	—
42	(仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	3頁	策定の背景 2.1. 地球温暖化について 2.1地球温暖化について 地球温暖化についての一般的な内容の説明ではなく、気候危機と呼ばれるような地球温暖化による世界レベルの危機的な状況をきちんと伝えるべきである。 参考：IPCC第6次評価報告書 'https://www.jccca.org/global-warming/trend-world/ipcc6-wg1	ご指摘を踏まえ、当該箇所につきましては記載内容の見直しを行いました。	有

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
43	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	4頁	策定の背景 2.2温暖化の状況 世界の平均気温上昇を1.5℃に抑えるには、どの程度の温室効果ガスの削減が必要かわかる「カーボンバジェット」に関する記述も必要。	ご指摘を踏まえ、2.4脱炭素に向けた世界・国・県の動きの2.4.1 世界における動向の記述を見直し、図の差替えも行いました。	有
44	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	5頁	2.3. IPCC による気候変動シナリオ ここでは、1.5℃を達成するには、どのようなシナリオが必要かを説明する必要がある。 参考：IPCC第6次評価報告書 ' https://www.jccca.org/global-warming/trend-world/ipcc6-wg3	ご指摘を踏まえ、シナリオについて下図への誘導の記載を加えると同時に、図を見やすくするために拡大いたしました。	有
45	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	6頁	2.4脱炭素に向けた世界・国・県の動き 2.4.1. 世界における動向 少なくとも第6次評価報告書、できれば最新のCOP28で発表された資料(排出量のグラフ)を使って欲しい。 世界の気温上昇を1.5℃未満に抑えるには、日本を含めて現状の各国の目標(NDC)では不十分であり、2050年のカーボンニュートラルを実現するために、2030年までの早期削減が重要であることが分かるグラフにする。	ご指摘を踏まえ、2.4脱炭素に向けた世界・国・県の動きの2.4.1 世界における動向の記述を見直し、図の差替えも行いました。	有
46	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	8頁	2.4脱炭素に向けた世界・国・県の動き 2.4.2国における動向 国の温暖化対策実行計画に基づく、省エネルギーや再生可能エネルギーの目標についても言及出来ると良いと思う。エネルギー関連については、2021年10月に閣議決定された第6次エネルギー基本計画で2030年度の目標が明記されている。 参考：第6次エネルギー基本計画 ' https://www.meti.go.jp/press/2021/10/20211022005/20211022005.html	ご指摘を踏まえ、当該箇所につきまして省エネの目標値等を記載しました。また、図の削除や拡大を行ってページ内のレイアウトを整えました。	有
47	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	14頁	3. 現状と課題 3.2. 八千代市の温室効果ガス排出状況 温室効果ガス排出状況には、環境省の自治体排出量カルテを用いているが、幾つかの問題がある。まず、現状では2020年度(令和2年度)までの情報しか掲載されていない。	本市における温室効果ガス排出量については、独自の算出を行っていない為、環境省が公表している自治体排出量カルテのデータを使用しています。	—
48	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	14頁	八千代市と全国におけるエネルギー起源温室効果ガス排出量の部門別割合(令和2年度(2020年度))について排出量に占める家庭部門16.2%と世帯数91,994数より、1,350千トンから1世帯あたりは、 $(1,350 \times 0.162) \div 91,994 = 2.38 \text{ t}$ (年間)上記を市民一人あたりに換算すると $(1,350 \times 0.162) \div \text{人口数} = \text{〇〇〇 t}$ この〇〇〇は、全国レベルと比較すると高いか低いかわかりにくく平均並みかを広く市民にアナウンスして啓蒙活動に役立てる必要があると考える。記載をして欲しい。	貴重なご意見として参考とさせていただきます。	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
49	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	16頁	産業部門別からの温室効果ガス排出傾向と製造品出荷額の関係について Y軸の単位が万円となっており、この意味を教えてください。その理由は、八千代市に進出している産業部門の製品出荷高は3億円未満ということか。	当該グラフのY軸の単位については、“千万円”に訂正させていただきました。したがって、当該グラフのY軸最大値は3千5百億円となります。	有
50	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	16頁	3. 現状と課題 3.2.3事業者の状況 産業部門のCO2排出量については、千葉県全体を市町村で按分しているため、過大となっている可能性がある。産業部門のCO2排出量は、各事業者からの排出量の開示など、別の方法でボトムアップ方式で集計を進めて、CO2削減対策を強化していく必要があります。	貴重なご意見として参考とさせていただきます。	—
51	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	17頁	3. 現状と課題 3.2.4. 運輸部門(自動車、鉄道) 自動車などによるCO2排出量は、把握が難しいが、自治体排出量カルテ以外の排出量の把握方法を検討する必要がある(特に2020年度以降)。	貴重なご意見として参考とさせていただきます。	—
52	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	19頁	3. 現状と課題 3.3. 市役所(事務事業)の状況 地球温暖化対策実行計画(事務事業編)が、別途検討されているが、事務事業編についてもパブコメを実施すべきである。現状では、市庁舎など公共施設から排出されるCO2の削減はあまり進んでいない。	全ての施策等を対象とすることは、行政の効率性の観点から問題があるため、行政内部に適用されるものはパブリックコメントの対象外となっております。事務事業編は行政内部に適用されることからパブリックコメントの対象とはしておりません。	—
53	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	20頁	3. 現状と課題 3.4.1再生可能エネルギーの導入状況 これまで再生可能エネルギー導入の主要な支援制度だったFIT制度が、今後減る見込みであり、FIT以外の制度で導入される自家消費型の太陽光発電の導入状況については、把握をする必要がある。特に八千代市では、太陽光発電に関する補助制度がほとんど無いため、把握が困難になっている。国や千葉県、そして事業者と連携して再生可能エネルギーの導入状況を把握する必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
54	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	21頁	3. 現状と課題 3.4.2再生可能エネルギーの導入ポテンシャル 環境省の再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査の結果だけを参照するのではなく、独自に地図は航空写真などを使った建築物への導入ポテンシャルなどの調査を、詳細に実施すべきである。エネルギー消費量については、電気だけではなく、熱(連暖房、給湯)や運輸(自動車、トラックなど)もあり、それらも見据えた省エネルギーや再生可能エネルギーの導入ポテンシャルを把握する必要がある。	貴重なご意見として参考とさせていただきます。	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
55	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	24～26頁	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に向けた課題 施策の方向性は良いと思うが、施策の整合性や方向性を、2030年度までの地球温暖化対策実行計画(区域施策編)と合わせる必要がある。例えば、「各部門における大幅な削減に向けて、排出特性を踏まえた市民・事業者・市による協働での取組を推進することとし、既存の技術の積極的な導入を図る」は、具体的なアクションプランまで策定できれば、重要な施策になると思う。	貴重なご意見として参考とさせていただきます。	—
56	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	25頁	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に向けた課題 意識・行動については、施策の方向性が「情報提供」や「行動変容」だけではまったく不十分。より積極的な施策が求められる。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
57	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	25頁	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に向けた課題 再エネ導入については、具体的なエリア別、セクター別(家庭、業務、産業、公共など)の太陽光発電の導入ポテンシャルを把握して、再エネ100%へ向けた導入目標を定め、具体的な支援制度を構築する必要がある。再エネの促進区域により、ゾーニングを行い、事業者とも連携して施策を進める必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
58	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	26頁	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に向けた課題 地域特性・まちづくりについては、公共交通機関(バスなどの電動化など)のインフラ整備と共に、電気自動車の普及のためのインフラ(充電など)整備を進める必要がある。さらに、ZEHやZEBの導入を、設計段階から積極的に支援する必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
59	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	26頁	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に向けた課題 市役所の取組については、市庁舎の建替え等、公共施設の更新の際に、ZEB化や太陽光発電100%(年間需要に対して)の導入を義務化し、既存の公共施設についても目標を定めて、出来るだけ、導入のための検討を行う必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
60	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	27頁	4. ゼロカーボンシティの実現に向けて 4.1将来ビジョン 多くの市民や事業者と共に、この将来ビジョンを策定して共有するプロセスが重要。	ここにはゼロカーボンシティを実現した八千代市のイメージを掲載する予定です。策定後HP等で公表しイメージを共有していきたいと考えます。	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
61	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	28頁	4. ゼロカーボンシティの実現に向けて 4.2基本的な考え方 環境の将来像や理念について、「ひと」「まち」「みらい」の3つのキーワードで整理しているが、それぞれ最初に述べたように、「ひと」は「市民・事業者の行動変容」ではなく、「行政・市民・事業者が連携した社会システムの変革」が必要である。「まち」の「地域ができること」として「省エネルギーの推進・再生可能エネルギーの導入」によりゼロカーボンシティの実現を目指すには、これらのレベルを相当高める必要があり、「ネット・ゼロ・エネルギー化および再生可能エネルギー100%」を実行する必要がある。そして「みらい」では「新しい技術の活用・創出」による「革新的技術の早期実装」を期待するのではなく、上記の将来ビジョンを明確に掲げて既存技術の早期普及を未来に向けて強力に進める必要がある。	貴重なご意見として参考とさせていただきます。	—
62	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	31頁	5. ロードマップ 5.2 再生可能エネルギーの導入目標 「区域の再生可能エネルギーの導入容量」の2030年度の目標値が初めて55.2MWと定められことは意義があるが、その導入目標値は不十分である。世界全体では、2023年12月にドバイで開催されたCOP28において、2030年までに再エネの発電設備容量を現状の3倍にすることが合意された。八千代市においても、現状の30MWの3倍である90MWの導入量を少なくとも目標とすべきである。さらに、2050年度に向けて、107.8MWの目標では、2030年の目標のレベルであり、熱や運輸を含めたエネルギー需要全体を賄う再生可能エネルギーの導入を目指すべきである。	区域の再生可能エネルギーの導入容量の目標値は国の目標値を参考に定めております。2050年度の目標も定めておりますが、まずは2030年度の目標の達成に努めて参りたいと考えます。	—
63	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	33頁	5. ロードマップ 5.4脱炭素シナリオ ロードマップと共に、再生可能エネルギー100%となるための具体的な再エネ導入シナリオを描く必要がある。区域の再生可能エネルギーで足りない場合は、区域外からの調達や、太陽光発電以外の再生可能エネルギーの推進を、区域外の事業者や自治体とも連携して進める必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
64	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	37頁	5. ロードマップ 5.6.1 ひと～ライフスタイル・社会システムの変革 脱炭素型ライフスタイルへの行動変容については、国キャンペーンや、情報発信、環境学習・教育、ポイント制度など様々な手法が必要になるが、具体的な施策として実施するには、市民・事業者との協働が重要。そのための、社会システムの見直し(変革)については、行政による率先行動が重要であり、事業者と共に建築物や交通機関の見直しを行っていく必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
65	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	37頁	5. ロードマップ 5.6.1 ひと～ライフスタイル・社会システムの変革 市民(団体)・事業者・市の連携は、とても重要です。連携のための場(協議会や市民会議など)、協働ネットワーク、事業者との連携協定など、このロードマップや、温暖化対策実行計画を推進をするさいに、実効的な連携の体制を構築する必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
66	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	40～49頁	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存技術の普及～ これらの取組をアクションプランとして、具体的に実施するための体制、予算、施策などを整備していく必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
67	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	41頁	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存技術の普及～ 省エネルギーについては、セクター別(家庭、業務、産業、運輸、公共、廃棄物など)に具体的な数値目標(2030年エネルギー消費量半減など)で、費用対効果の高い、効率的な手法でのエネルギー消費量の削減をする必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
68	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	43頁	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存技術の普及～ 家庭と業務部門において、市内の新築のZEBやZEH化100%を目指すことは重要だが、さらに既存住宅に対する省エネルギーや再エネ導入も同時に進める必要がある。	現在、住宅用省エネ設備等導入に関する補助金で窓の断熱化や蓄電池の導入などを支援しています。 計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
69	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	44頁	③再生可能エネルギーの普及推進について 現状は太陽光発電設備であるが、将来的には事業者を募って耕作放棄地等を活用してバイオマス発電設備を導入する考え方はあるか。	バイオマス発電の導入について現時点で具体的な構想があるわけではありませんが、将来的に実施する可能性は排除していません。	—
70	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	44頁	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存技術の普及～ 再生可能エネルギーについては、公共施設での率先導入は100%を目指した上で、市民や事業者についても、単なる情報発信だけではなく、数値的な目標やインセンティブを伴う施策を、他の自治体の事例なども参考にしつつ実行していく必要がある。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
71	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	44頁	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存技術の普及～ 再生可能エネルギーの普及推進については、2050年に再生可能エネルギー100%を、総エネルギー需要に対して達成できるようなロードマップを描いていく必要がある。より詳細な導入ポテンシャルの調査や導入計画の策定、地域での再生可能エネルギー事業の推進や地域新電力などによる再エネ由来電力の調達求められる。地域での経済効果なども踏まえた、再生可能エネルギーのためのインフラ支援の財政措置や、民間事業者と連携したPPAなどのビジネスモデルを積極的に活用していく。再生可能エネルギー(太陽光発電など)の導入には、再エネ促進区域や届出制度などにより、環境への配慮や合意形成のプロセスも必要である。	市は東京ガス・大多喜ガスと昨年度カーボンニュートラルシティ実現に向けた包括連携協定を締結していますが、その協定の取組の中でPPAの可能性調査を実施しています。 計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
72	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	50～52頁	5. ロードマップ 5.6.3みらい 水素エネルギーやカーボンリサイクルについては、エネルギー事業のインフラ整備や大企業による付加的な取組の中で進めるべきであり、地域の脱炭素化としては再生可能エネルギーや省エネルギーの推進を優先すべきである。	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
73	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	東京都の新築住宅へソーラーパネルの義務化を本市も採用して頂きたい。本市野村グランドに新築された家屋には殆どパネルが無いのは残念。自宅は古く瓦葺であるため耐震性が心配でパネルはつけられない。	43頁において、市内における新築のZEB・ZEH化100%を目指す旨を記載しており、住宅への太陽光発電設備の普及は重要であると考えております。引き続き太陽光発電設備の普及に努めて参りたいと思います。	—
74	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	省エネ診断は非常に有効である。市内の幼稚園で省エネルギー診断を実施してもらった例を知っている。その例では「10年経過したエアコンを取り換え、県の補助金を使うと効果がある。」「10年経過したソーラーパネルはFITではなく自家消費に切り替えると効果がある。」といった具体的なアドバイスをもらっている。	省エネ行動に取り組む上での課題の一つとして、情報不足が挙げられていることから、具体的な省エネ行動の明示につながる省エネ診断についても、情報を発信し実施を促して参りたいと思います。	—
75	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	本市にはやちよ自然エネルギー市民協議会と(一社)やちよ未来エネルギーの強力なゼロカーボン推進団体があるので、自治体ももっと協力して地域脱炭素を推進して頂きたい。	ゼロカーボンシティの達成は一部の主体の取組だけでは困難であると考えており、37頁において、市民(団体)・事業者・市の連携をうたっております。引き続き関係団体と連携し脱炭素社会を目指して参りたいと考えております。	—
76	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	ソーラーシェアリングを作る際の制約が多過ぎる。もっと作り易く制約を緩和して頂きたい。	ソーラーシェアリングに取り組むに当たっては、発電事業を行う間、太陽光パネルの下部の農地で適切に営農を継続する必要があるため、ある程度の制約はやむを得ないものと考えますが、44頁において、ソーラーシェアリングも含む多様な手法による太陽光発電の普及をうたっていることから、ソーラーシェアリングの普及についても推進して参りたいと思います。	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
77	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	公共施設は率先してZEB化を推進して頂きたい。	本市の新庁舎については、ZEB Readyを予定しており、43頁において、今後の公共施設の新設・改修時におけるZEB化の推進をうたっております。本ロードマップに基づき、公共施設のZEB化を推進して参りたいと考えております。	—
78	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	令和6年度以降に家庭で太陽光発電設備や蓄電池設備を導入した場合、補助金等の対象となるか。	パブコメの意見として取り扱えない為回答は控えさせていただきます。	—
79	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	将来的に水素ステーションを道の駅等に導入するために事業者等を募る考えはあるか。	パブコメの意見として取り扱えない為回答は控えさせていただきます。	—
80	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	清掃センターで水力発電を利用して敷地内の防犯灯に活用していたが、現在は止めたのか。継続中ならば水力発電設備もありその旨も記載した方が望ましいと考える。	貴重なご意見として参考とさせていただきます。	—
81	(仮称)八千代市 地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	用語集を巻末等入れて欲しい。 ・ P26 に記載されているPPA、4Rを構成している各々の意味 ・ P37 に記載されている技術イノベーション、CO2CO2 スマート宣言事業所登録制度 ・ P42 に記載されている ZEB、ZEB・ZEH、ZEBReady ・ P45 に記載されている AI・ICT ・ P47 に記載されている GDP・SBT、RE100、SHIFT 事業、ASSET 事業	ご指摘の用語につきましては、用語集を作成して対応して参ります。	有

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
82	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案) (仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	<p>CO2の排出について日本の対応が悪いとして化石賞が受賞されたが馬鹿馬鹿しい茶番劇である。悪者とされているCO2が無ければ生物は死んでしまうし、化石燃料は利便性が高く人類を豊かにしてきた。</p> <p>世界経済フォーラムでは温暖化していないことがバレて気候変動と言うようになり、最近では水田や農業は環境破壊だと言って外国では笑いものにされている。</p> <p>外国の話だが温度センター設置場所が詐欺的である。温暖化のデータは寒かった頃のデータを省いたものである。</p> <p>脱炭素から再エネへという話だが、太陽光パネル推進の都知事と結託していた業者は詐欺罪で捕まっているし、大阪では維新が中国共産党傘下の上海電力の太陽光パネルを推している。中国は水源地や自衛隊の周辺を買い占めており安易に太陽光パネルを推進すると中国製が多いので何をされるか怖い。</p> <p>太陽光パネルは壊れると危険で素人は触れず、汚染物質を垂れ流すので稲作が出来ない地域もある。</p> <p>風力発電でも利権で逮捕された議員がいるし、低周波健康被害や魚の大量死なども報告されている。</p> <p>EV車は説明書をみると発火・爆発・汚染物質の放出により消防車の対応すら難しいのでは無いかと思う程である。</p> <p>このように偽善に満ち特定の者を儲けさせる脱炭素・環境原理主義、CO2をこの地域だけは削減したいというCO2移動ビジネスは意味をなさない。ロードマップや基本方針は根底から違う気がする。八千代市としてやるしかないのであれば、健康被害や汚染の無いものを再考するか、縮小してしまうかした方が良い。</p>	<p>貴重なご意見として参考にさせていただきたいと思いません。</p>	—
83	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案) (仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	<p>まず全体を見ての感想はこの緩いやり方では到底目標は達成できないということ。</p> <p>その他、サービス部門や家庭部門の大幅な削減目標とうたう割にはその本気度が見られない。</p>	<p>目標達成に向け、各種施策の推進に努めて参りたいと考えます。</p>	—
84	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案) (仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	<p>毎回環境のパブコメで多岐にわたり色々な目標などを掲げるが、手広くやりすぎてはたしてどのくらい実効性があるのか疑問。太陽光にしぼりたいのならもう少し他は控えめに書くべきでは。あれもこれも理想や目標を掲げることは大切だが、全てやろうとしたり欲張りすぎたりするとやはり環境保全課環境政策室や市民ボランティアだけの話では到底まわらない絵にかいた餅状態になるのではないかと。もう少しまとを絞るべき。</p>	<p>脱炭素社会の実現のためには、様々な施策を同時に推進していく必要があります。</p> <p>ご指摘の通り市の担当課でできることには限りがあることから、様々な関係者と連携し、脱炭素を推進して参りたいと考えます。</p>	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
85	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案) (仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	ソーラーカーポートの普及もいいが、何年でペイするのかなどの計算は度外視か。カーポートの場合柱に車がぶっかり損傷した場合、その修理費やその期間の発電などがとまる可能性があり採算度外視に近い考えでやる覚悟は必要。 台所を新調して元を取ろうとする人はいない。それと同じ考えで再生可能エネルギーが増えるならインフラの一つとして元をとる計算はしないという考えの元やるべき。	脱炭素を推進していくにあたっては、PPA等初期投資不要の事業もあることから、様々な事業手段を考慮して進めたいと考えます。	—
86	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案) (仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	カーボンオフセット計算はどのようになっているのか。	カーボン・オフセットとは、日常生活や経済活動において避けることができないCO2等の温室効果ガスの排出について、まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方であることから、まずは排出削減に努めたいと考えます。	—
87	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案) (仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	牛のゲップについてふれられていない。酪農業が多い八千代市では牛のゲップに含まれるメタンはCO2の25倍もの温室効果があると言われている。 大学の研究によると、カギケノリと呼ばれる海藻を小さく切り刻み、牛に与える餌の0.2%分を混ぜることで、ゲップによるメタン排出量を85%カットできるという。 また牛の飼料にカシューナッツ殻液を混合することでげっぷの発生源となる第一胃に働きかけ、メタン発生を約20~40%も抑制する効果があるといい、このカシューナッツ殻液を使った家畜用の機能性飼料「ルミナツ」を開発・販売を出光興産株式会社が販売している。これらの飼料の導入補助費を酪農家につけてみてはどうか。 効果測定が難しいが、サンプリングで牛何頭かからげっぷ内のメタンガス濃度を調査することにより、八千代市内でのメタンガス削減量がある程度推測できるかと思う。 八千代市内のすべての牛のゲップやおならのメタンガスが抑制されたらかなりの効果はあり、この分のカーボンオフセットの取引分はばかにできないと思う。	メタンはIPCCの第5次評価報告書によると、その地球温暖化への寄与は同じ量の二酸化炭素の28倍になるとされていますが、温室効果ガス総排出量に占めるガス別排出量は、二酸化炭素が圧倒的に多いことから、まずは二酸化炭素の排出削減を中心に施策を推進していきたいと考えます。	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
88	<p>八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)</p> <p>(仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)</p>	—	<p>昨年7/27、国連のグテーレス事務総長が地球温暖化、気候変動の現状について世界に向けて発言した。</p> <p>「人類は窮地に立たされている。今年の7月が人類史上最も暑い月に、海水温も過去最高となった。地球温暖化の時代は終わった。地球沸騰化の時代が到来した。」「リーダーたちは先頭に立たなければならない。言い訳は無用。もはや誰かが動くのを待つ時間はない。地球の気温上昇を1.5℃に抑え、気候変動による最悪の事態を回避することはまだ可能。しかし、それには劇的で即座の気候変動対策の加速が不可欠。」「まずは排出量削減。先進国は2040年に、そして新興国は支援を受けて2050年にできるだけ近い時期のネットゼロにコミットするよう、対策を加速していかなければならない。グリーンウォッシュはもう不要。これ以上の欺瞞はない。」「第二に、適応。全ての国は、灼熱や、致命的な洪水、嵐、干ばつ、猛火に対応し、これらから国民を守らなければならない。気候変動という大虐殺から何百万もの命を救うために、適応への投資を世界的に急増させる時である。」</p> <p>これが地球温暖化問題、気候変動問題に対する世界の認識。グリーンウォッシュというのは「この問題に対して上辺だけやったふりをする」と意味している。</p> <p>2018年に公開された国連IPCCの「1.5℃特別報告書」では、気温上昇を1.5℃に抑えるためには、2030年までに世界全体のCO2排出量を約45%削減することが必要とされ、2050年には実質ゼロが必要とされた。グテーレス事務総長の発言では先進国は更に前倒しして2040年には実質ゼロを努力すべきとされた。</p>	<p>貴重なご意見として参考とさせていただきます。</p>	—
89	<p>八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)</p> <p>(仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)</p>	—	<p>温室効果ガス削減目標(2030年)</p> <p>この世界の認識に対して、日本政府では「46%削減。さらに50%の高みに向けて挑戦を続ける」と目標設定をした。千葉県は昨年3月「40%削減。更なる高みを目指す」とした。そんな中でこの計画の中でこの本市の温室効果ガス削減目標は結局千葉県と同様の「40%削減。更なる高みを目指す」となった。ゼロカーボンシティ宣言をしてから3年近く経つてのようやくの見直しだが、正直、世界の認識からしたら、これでも全く足りない目標である。まずはこの目標設定の引上げを検討して欲しい。せめて日本政府と同様の目標設定とするべき。</p>	<p>今後の計画の進捗等を踏まえ、更なる高みに向けて取り組んで参りたいと考えます。</p>	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
90	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案) (仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	<p>最大限の再生可能エネルギーの導入という点で、本市で最も可能性のあるのが太陽光発電。その点から「PPAやソーラーシェアリング」を推進するためのそれぞれの具体的な設置目標やアクションプランを設定すべき。また「ソーラーカーポート」の推進も非常に有効。施策として計上の上、具体的な設置目標やアクションプランを設定すべき。</p> <p>またその具体的な推進として、新市庁舎計画において、駐車場を最大限活用してソーラーカーポートの設置を検討して欲しい。500kwのソーラー設置で、現計画でもNearzyZEB市庁舎にできる。500kwの大規模ソーラー&NearzyZEB庁舎は全国みても一例もなく、日本No1のゼロカーボン庁舎にできると思う。これは環境施策としてだけでなく、補助金の積み増し、ランニングコストの縮減、庁舎の業務継続性の向上、シティプロモーションにも繋がる。検討して欲しい。</p>	<p>PPAやソーラーシェアリング、ソーラーカーポートの具体的な目標設定につきましては、今後の検討課題とさせていただきます。</p> <p>新庁舎につきましては、現在作成済の八千代市新庁舎等建設基本設計に基づき進めて参りたいと考えます。</p>	—
91	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案) (仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	<p>本市が「2050年ゼロカーボンシティ」を本気で目指すには、繰返しとなるが、「市民・事業者・行政あらゆる主体を巻き込みながら、全ての主体で徹底した省エネ施策と、最大限の再生可能エネルギーの導入」が必要となる。まず率先して市が本気を見せるために、事務事業編に市としての明確な目標設定をし、本気度を示す必要があるのではないかと。それなくして市民や事業者を巻き込むことは難しいと思う。見直しをお願いしたい。</p>	<p>ご指摘の通り市が率先して取り組みやる気を見せることは重要と考えます。市民や事業者などに取り組んでいたけりよう市も努力して参りたいと考えます。</p>	—
92	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案) (仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	<p>「市民・事業者・行政あらゆる主体を巻き込みながら」本気で推進するためには、伝えた省エネ施策や再エネ導入施策の反映とともに、市民・事業者・行政が連携して対策を推進するための協議会などの取組みが必要。施策と目標設定をお願いしたい。</p>	<p>脱炭素への取組につきましては、市民、事業者との連携の必要性は重要であるとの認識しておりますが、協働体制の構築につきましては、先進市の事例を参考に検討してまいりたいと考えております。</p>	—

No.	該当計画	頁数	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正有無
93	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案) (仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	庁内にゼロカーボンシティ施策を推進する専門部署を設定して、推進体制を構築して欲しい。そして各担当部局毎の施策と目標設定を実施して、その推進管理を実施する事務所掌を設定し、権限を持たせる必要があると思う。検討して欲しい。	令和6年4月にゼロカーボンシティ推進室を設置する予定となっております。 計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。	—
94	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案) (仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	事務事業編策定も少なくとも審議会を経由して計画策定をするべき。事務事業編の見直しがこの期に及んで、2025年向けに行っているというのもありえない。2030年向けの計画見直しを実施して、きちんと施策と目標を設定して欲しい。	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案)に対するご意見でも(仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)に対するご意見でもないため、貴重なご意見として参考とさせていただきます。	—
95	八千代市第3次環境保全計画(改訂版)(素案) (仮称)八千代市地域脱炭素ロードマップ(素案)	—	市民や事業者を巻き込むために分かりやすい目標設定をするのはどうか。新川千本桜ECOライトアップを市として支援頂いているが、このようなECOイベントの実現というのは市民や事業者に対してとても分かりやすいメッセージとなる。市の3大祭りや花のお祭りやライトアップのECOイベント化、ECOライトアップ化を目標に掲げて推進して欲しい。 千本桜祭等で実現出来ており、実現する事業者や協力事業者もいるのだから、他のイベントでも実現できると思う。市のやる気次第。目標設定を検討して欲しい。	市民の意識啓発に向けた手段として有効な手段と考えられることから、今後の検討課題とさせていただきます。	—